

プリントに革命を。定額制フルカラー印刷放題サービス



ペーパーレス化を成功させる

5つのポイント



ペーパーレス化を成功させる5つのポイント

- | | |
|---------------------------------|-------|
| ① ペーパーレス化の推進 1-2 | 3ページ |
| ② ペーパーレス化のメリット | 5ページ |
| ③ ペーパーレス化がうまくいかない理由 1-2 | 6ページ |
| ④ 【ポイント1】印刷コストの見直しとDX化を同時に行おう | 8ページ |
| ⑤ 【ポイント2】必要な印刷は気兼ねなくできる環境作りをしよう | 9ページ |
| ⑥ 【ポイント3】大型複合機は要らない | 10ページ |
| ⑦ 【ポイント4】プリント革命なら全て解決 | 11ページ |
| ⑧ 【ポイント5】使用した紙はリサイクルしよう | 12ページ |
| ⑨ お問い合わせ | |

ペーパーレス化の根本的な背景

国や政府が推進するデジタルトランスフォーメーション(DX)や働き方改革の影響により注目されるようになった、その一部分を担うコスト削減と業務効率化を目指した施策です。

ペーパーレス化は、企業単位の取り組みとしてではなく、政府主導のもと国家単位で推進されています。

2018年、政府はデジタル技術とデータの活用によって国内産業の競争力の維持・強化するDX化の実現を目標に掲げました。また、同時に生産性を向上することで職場の労働環境改善を図る「働き方改革」も本格化しています。

ペーパーレス化による書類のデータ化、デジタル化はどちらにも欠かせない存在であり、「e-文書法」「電子帳簿保存法」「IT導入補助金」などの施策や法改正が実施されているのです。また、2021年にはデジタル庁が発足され、今日のペーパーレス化のベースとなっています。





今日のペーパーレス化:

これまでの動きと違って、2つの軸がベースになっています!

働き方改革からくる DX化

ペーパーレス化は単純に「紙を減らそう」ではなく「働き方改革からくるDX化」が軸になっているとも言えます。

これまではどうやって紙を減らすのか(HOW)に注目されていて大がかりなツールの導入やひどく手間のかかるデータベース作業が必要なケースもあり頓挫する企業が後をたちませんでした。今日ではなぜペーパーレス化が必要なのか(WHY)を根底しており、それが働き方改革を目標としていることは明らかです。業務の効率化、生産性の向上、テレワーク化の推進、ひいては社員のワークライフバランスの向上とより目的が明確なWHYが存在することが挙げられます。



新型コロナウイルス感染症の対策

2020年から世界的に大流行した新型コロナウイルス感染症によって、急速に「脱紙」の意識が高まりました。

その主な理由はテレワークの増加です。テレワークが普及する過程で問題となったのが「紙書類の非効率さ」であり、この課題を解決するためにペーパーレス化は非常に重要なポイントと言えます。また、ペーパーレス化は、非常事態においても早期に事業を再開できる「BCP(事業継続計画)」としても有用であり、新型コロナウイルス感染症の拡大を機に導入を検討する企業も増えていきます。



業務効率化と生産性の向上



ペーパーレス化は単に「紙を減らそう」ではなく「働き方改革からくる DX化」が軸になっているとも言えます。これまではどうやって紙を減らすのか（HOW）に注目されていて大がかりなツールの導入やひどく手間のかかるデータベース作業が必要なケースもあり頓挫する企業が後をたちませんでした。今日ではなぜペーパーレス化が必要なのか（WHY）を根拠しており、それが働き方改革を目標としていることは明らかです。業務の効率化、生産性の向上、テレワーク化の推進、ひいては社員のワークライフバランスの向上とより目的が明確なWHYが存在刷ることが挙げられます。

コスト削減

紙代、印刷代、インクトナー代や保守コストなど印刷に関わる経費を根本的に大幅削減ができる。また、紙を共有にするにあたっての郵送代やFAX代など二次費用の削減も可能。金額の大きいイニシャルコストの削減よりも中長期的にかかるランニングコストの削減の方がインパクトが大きい。

環境への配慮

紙を減らすことは間接的に森林の伐採を減らしひいては地球環境の保全に繋がる。



資産化／共有

紙の資料をデータベース化することで、資料の保管スペースが不要になりつつ、社内共有しやすくなる。



セキュリティ強化

紙の資料にありがちな紛失・劣化・情報漏洩のリスクを減らすことができる。



企業価値向上

ペーパーレス化を推進することは環境保護への取り組みを実践している企業だと対外的にアピールできる。





ペーパーレス化に取り組む企業が多くある一方で、なかなかペーパーレス化に着手できない企業や、実践したけどうまくいかなかった企業があるのも事実です。

企業がペーパーレス化に踏み切れない理由と、思うようにペーパーレス化がうまくいかない理由を、2つに分けてについて見ていきましょう。

推進する前に解決できる課題はしておかないと思うような効果が見込めないので必ずチェックしましょう。

企業がペーパーレス化に踏み切れない理由

初期コスト

ペーパーレス化を進めるには、システムの導入やサーバー・インフラなどの環境整備、セキュリティ対策、PCやタブレットなどのデバイスの用意も行う必要があります。初期コストがかかってしまいます。

一方で、ペーパーレス化の長期的なメリットをみれば、紙代や印刷代、人件費などのコストを大幅に削減できることも確かです。短期的な視点ではなく、長期的な視点でペーパーレス化のメリットを理解する必要がありますと言えるでしょう。

DX化の初動ハードルが高い

ペーパーレス化はただ単に紙を減らすのではなく、データベース化できる書類は電子化する必要があります。

もちろんそのためにはサーバーやスキャナーなど物理的に必要な機器などがあり、普段の業務とは別にその作業を行う従業員も必要だし、体系的に保存していくスキルも必要です。

もし社内に該当する人物がいればいいですが、新たなツールと人材の確保はハードルが高いのも事実です。

電子化できない資料がある

ペーパーレス化は全ての紙をなくす施策ではありません。業務では電子化できない書類もたくさんあり、そのすべてまで電子化することで逆に業務に弊害が出てきます。

こういった資料はデータベース化できず、こういった資料は印刷すべきなのかの線引きは必須です。



思うようにペーパーレス化がうまくいかない理由

業務の不便さを克服できない

会議中に紙に直接メモが取れたり、持ち運びがしやすかったりなど、紙にはタブレットやノートPCにはない便利さがあり、いままでできたことが出来なくなることへの抵抗感がある場合がある。

ITリテラシーの差

社員間のITリテラシーに差があることで、ペーパーレス化の取り組みが進まないケースあります。とくに年配者のなかにはデジタル機器の扱いに不慣れな方も多く、慣れ親しんだ紙ベースの業務を変えることに抵抗を覚えることが少なくありません。

システム障害への不安

災害や停電などによるシステム障害への不安から、ペーパーレス化に踏み切れない企業もあります。たとえば、システム障害によってデータの閲覧ができなくなったり、データそのものが紛失してしまわないかという懸念が挙げられます。

経営陣や従業員の理解不足

よくある課題で、削減したい経営陣と、実務では必要な資料は印刷したい従業員との意識の差があります。どちらかが悪いというわけではなく、同じ目標のもと全社で意識改革する必要があります。



達成目標設定と評価の基準が曖昧

ペーパーレス化はただ単純に紙を減らせばいいというわけではありません。いつまでに、この部署の、この業務の資料を、〇%削減する、といった形で細かく目標管理すると同時に、“必要な資料はこれまで通り印刷する”といった明確な住み分けが必要です。

前述の通り、現代のペーパーレス化は「紙を減らそう」から来るものではなく「働き方改革の一環のDX化の第一歩」であるということを念頭に置いて実践する必要があります。

印刷コストの見直しをしよう！

実際に行動する前に、
現状を把握することをおススメします。

- 全社で何枚の印刷をしていてその費用はいくらなのか
- 印刷が多い部署、少ない部署の把握
- プリンターのインシヤルコストとランニングコストは月にいくらかかっているのか
- 印刷物とコストを何%削減することを目標にするのか



ここまで全て数字で出せて
初めてスタートラインです。

現状を把握したら目標をたてて
手段を考えましょう。

例えば営業部ではお客様への資料を全てタブレットで見せることにしたら部内の印刷が50%カットできるとしましょう。
当然すぐには難しいので段階を踏んで実践することが必要です。

1. ○月○日までにタブレットに掲載する用の資料を作成する
2. 今ある資料で不要なものはないかチェックする
3. タブレットの使い方の周知徹底をする
4. もしタブレットが使えなくなったときように事前に何部か資料印刷をする
5. ○月○日までに資料印刷をやめタブレットに一本化する

目標を決め、周知をし、準備をして、不測の事態への対応も事前にし、本格始動日を決める。ペーパーレス化は準備と段取りがとても大事です！

前述の通り、現代のペーパーレス化は「紙を減らそう」から来るものではなく「働き方改革の一環のDX化の第一歩」であるということを念頭に置いて実践する必要があります。

DX化の推進をしよう！

ペーパーレス化の際のDX化

「印刷する必要がなくデータベース化できる書類と、日々の業務で印刷をする必要のある書類を分ける」ことから始まります。

※ データベース化できる書類とは、以下です。

1. 共有化して活用する価値がある文書
2. 検索スピードが求められる文書
3. 電子化すれば倉庫に保存できる文書
4. 電子化すれば廃棄できる文書
5. 電子化して原本性が確保できる文書

具体的には契約書やマニュアル、人事や経理書類など原本性が保たれるものやデータ管理をして検索性や共有効率が上がるものが主流です。

印刷の必要がある書類

※ 以下です。

1. お客様と対面してお渡しする文書
2. 書き込みながらの作業が必要な文書

明確にどういった書類か明言しきれませんが、業務を優先して印刷が必要な場合は、こちらに含めて問題ないでしょう。

ここまで分類したらデータベース化できる書類は、社内サーバーやクラウド化しましょう。その際、検索性や情報の粒度、メンテナンス性を考えて行いましょう。



ここまでご覧頂いた方はお分かりかと思いますが、ペーパーレス化は印刷をゼロにすることではありません。

印刷環境を見直し、不要な印刷はせず、必要な印刷をすることです。

過度なペーパーレス化の推進は業務効率も大きく落ちるので、この点は注意しながら進める必要があります。

必要な気兼ねなく印刷できる環境づくりを！



過度な印刷制限で出てくる弊害 ...

印刷枚数を減らしたり印刷コストの削減を目指していると様々な弊害が出てきて業務効率が落ちることがあります。実際に当社でヒアリングした事例を紹介します。

事例① 資料が見つらなくなった

印刷枚数を減らす為に両面集約印刷や資料の濃度を下げたり、カラーの資料を白黒印刷したりした場合によく聞かれる事例です。確かに印刷枚数やインクの使用量は減っているので印刷コストは下がっていますが、情報伝達の効率や理解度が下がってしまえば本末転倒です。

事例② 印刷をしなくなった

ペーパーレス化の注意点を知らないまま「印刷を減らすぞ！」と意識の高い人ほど陥りやすい事例です。不要な印刷はもちろんなくすべきですが、必要な印刷は気兼ねなくしましょう。

事例③ ペーパーレス化に対応できる人とできない人の意識格差

主にITリテラシーに起因することが多い事例。新しいツールやルールにすぐに馴染める人は問題ないですが、受け入れにくい人からするとただ小難しい弊害が生まれるだけです。それが原因で紙がないとだめな人とタブレットでも大丈夫な人が出てきてしまうと、そこで印刷や資料を作成する必要があるので工数を減らすどころか不要な業務が増えてしまいます。

事例①のように、
良かれと思ってやったことで業務効率を
著しく下げってしまうのも...**本末転倒**です。

大前提として、印刷に関して従業員も
管理者も必要な印刷物の共通認識と
イレギュラーがあったときの印刷ルールを
作成するのがいいでしょう。
また、部署や個人によっても適応できる範
囲があるので過度に管理することを目指す
のではなく、ペーパーレス化に適応した業
務進行をベースにすることを
目標にした組み立てが必要です。



データベース化できる印刷はなくし、必要な印刷のみをするようになると、それまでの印刷環境とは大きく異なる点が出てきます。それは大型複合機は不要になってくるということです。

大型複合機は要らない！



大型複合機が不要だと感じるタイミング ...

以下の点に該当したら、
大型複合機がオーバースペックになってきたと判断できるでしょう。

- 大型複合機を使っていない部署がある
- 印刷枚数を30%以上削減できた
- 大型複合機で使っていない機能がある(集約印刷、ステープル、製本機能など)
- 大量印刷や急ぎの印刷の業務がない

いずれかの項目に該当する場合は機種の入替えや減台を検討することで更に印刷コストの削減につなげることができます。また不要になった大型複合機がなくなることでスペースも確保できるので事業所をさらに有効利用できます。

もちろん大型複合機でしかできない機能や印刷スピードはあるので完全になくす必要もないでしょう。例えば部署に大型複合機が3台あったとしたら、1台はそのまま残して2台は中型や小型の複合機やプリンターに変えることでそれまでのリース代から30%~50%ほど削減することができます。

タイミングを見て、
大型複合機をどうするか**判断は必須**です。

印刷代としてインク代や紙代を減らすことも大事ですが、根本的に複合機自体のコストをカットすることはとても有効です。

複合機自体を変えたり減らしたりすることは最初は不安感もあるかもしれませんが、ペーパーレス化が進むと事実上印刷も減ります。そうなってくると印刷しないのに複合機にお金を支払うのも不要なコストなので、タイミングを見て大型複合機をどうするか**判断は必須**となってきます。



大型複合機を減らす決断をし、いざ中型のプリンターや複合機を導入しよう!となったとき、
すぐにリースや購入を検討していませんか? それは大きな間違いです。

プリンターはリースor購入ではなく、レンタルがおススメ!



ペーパーレス化を念頭に置いた場合には
レンタルプリンターを導入することが、印刷コスト的にも業務効率的にも優れていると言えます。

プリンターを購入する場合には、サポートは保証期間内のみしかなく、高額な純正インクを購入し続けると印刷コストは全く下がりません。対してレンタルなら、契約中はずっとサポートを受けられるし、インクも使い放題なのでコストを気にする必要はありません。

リースと レンタルを比較

リース	<ul style="list-style-type: none">・3年~5年の期間契約であり途中解約は違約金が発生・カウンター代と言われる実質印刷代も発生するので刷れば刷るほどコストが増える
レンタル	<ul style="list-style-type: none">・契約期間は一ヶ月更新が主流なので解約もすぐでき、増台もスムーズに実現・月額の手数料制なのでインクやトナーなどの印刷代はいくら刷っても増えない

オフィス利用では、プリンターレンタルは良いことだらけと言えます。





ペーパーレス化を推進するにあたって、
印刷コストの削減は、プリント革命を導入するだけで着実に推進することができます！

圧倒的な印刷コスト削減効果

プリント革命では**最大78%もの削減実績**があります。
仮に月間印刷コストが200万円だったとしたら、
44万円へと劇的に削減ができます。

印刷コストの均一化

プリント革命は、**定額制のサブスク型レンタルプリンターサービス**です。繁忙期など印刷が多い時でも
毎月の印刷コストを定額化することが可能です。

業務効率の向上

大型複合機1台を中型複合機2台に変えることは業務効率UPに直結します。

1台での運用は故障のリスクもあり、印刷できるまでの待ち時間が発生します。また印刷物が混ざってしまうと目当ての資料をソートし直す手間も発生します。対して中型複合機2台にすれば、1台が故障してもリスクヘッジになります。待ち時間なくも並ぶことも印刷物が混ざることありません。

理想はフロアに1台だった大型複合機を、
デスクの**島ごとに中型複合機を設置することで、
最大限の効果**を見込めます。

変更で効果絶大

プリンターを変更で効果絶大！
コスト削減や業務効率改善など
大きなメリットがあるのに対して、行う
ことはプリント革命を導入することの
みです。難しいツールやルール作り
も必要なく、ただ単に
プリント革命を導入することが最短の近道です。

審査や契約書がない

リースと違って細かい取り決めのあ
る契約書や厳しい審査などはありま
せん。
またお申込みやインクの注文は全
て**webで完結**するので日々の業
務を妨げることなく利用できます。

今日のペーパーレス化はコストの削減と業務の効率化だけでなく、もう一歩進んでいて、印刷した紙をどうするかまでも考える必要があります。

印刷した紙はリサイクルをすること

そこまですべて初めて対外的にも「ペーパーレス化を推進している」と明言できます。

ご安心ください！
プリント革命には
機密文書処理サービスも
あるので、簡単に
導入できます。



印刷も廃棄もスムーズ

必要な資料は気兼ねなく、
印刷をし不要になった紙を
ワンストップで廃棄！

ペーパーレス化の推進

ペーパーレス化の推進、
印刷コストの削減、
環境への配慮と三方良し

SDGsへの貢献

ペーパーレス化と
SDGsへの貢献を両立

安心安全に廃棄

80年の実績の情報抹消
専門工場が安心安全に
機密文書を廃棄



ご都合に合わせて回収

スポット回収、定期回収など
フレキシブルに対応



環境に優しいリサイクル

回収した紙はリサイクルで
環境にも優しい



お問い合わせについて

プリント革命のサービスに関するお問い合わせは、
下記までご連絡をお願いいたします。



0120-479-321

通話料無料（平日 10:00~18:00）



prikaku@c-connect.co.jp



<https://printing.ink-revolution.com/>

どんな些細なことでも、お問い合わせください。ご連絡、心よりお待ちしております